Call 公募	HORIZON-CL3-2026-01-DRS-05
Project	**Climate security and civil preparedness – new ways to develop pre- and post-crisis climate-change related scenarios for a more resilient Europe** HORIZON-CL3-2026-01-DRS-05
Topic description トピックの説明	期待される成果： 本プロジェクトの成果は、以下の期待される成果の**一部またはすべて**に寄与することが期待される： ● 気候安全保障シナリオの特定と優先順位付け、および複数のセクターにまたがる連鎖的・複合的なリスクの評価； ● 気候・環境リスクの予測、危機管理、および適応に向けた高度なツール、技術、データ駆動型ソリューションの開発と検証。これには、リスク分析・評価ツール、気象警報および予報などが含まれる。 ● 気候変動に起因する災害を評価・監視するための高度なツールや技術の開発および検証を行うとともに、適応策やリスク軽減策に関するリスク情報を提供すること； ● ステークホルダーとの連携を強化し、気候セキュリティソリューションの要件定義、テスト、および検証において、エンドユーザーの参画を確保すること； ● 実運用環境に近い、新たなリスク管理ツール、技術、データの開発と検証。地域および地方レベルでのリスク管理および気候変動への適応に関する取り組みに重点を置くべきである。 ● 気候変動に関連する災害（洪水、火災、土砂災害、熱波など）について、危機発生前の分析および危機発生後の状況把握； ● 気候安全保障のレジリエンスと備えを強化するため、国際協力の強化、政策の統合、および国民の意識向上を図る。ベストプラクティスを交換するためのネットワークを強化し、「防災連合戦略」および「仙台防災枠組み」の国際的な側面を支援する。 スコープ： 気候変動は、世界、地域、そして地域レベルにおいて、安全保障に深刻な影響を及ぼす世界的な課題である。これは、農業、生物多様性、保健、国境警備、経済、金融の安定、交通、通信、人々の避難など、多岐にわたる分野におけるリスクを増大させ、深刻な社会経済的影響をもたらし、地域社会の安定を損なうことにつながる。気候変動に関連する災害の発生頻度と規模の拡大は、リスク評価、危機管理、適応策を統合し、保険業界の専門知識も活用した、気候安全保障に取り組むための包括的かつ長期的な戦略が緊急に必要であることを浮き彫りにしている。 データ分析に基づく気候サービスは、利用者から高い信頼を得ている一方で、市民の安全への応用は依然として十分に進んでいない。提案は、危機発生前（危機前）および危機発生後（危機後）の両方において状況認識を向上させ、意思決定者や住民が効果的に対応できるよう、方法論、ツール、および技術の開発を目指すべきである。研究では、EU における優先的な気候安全保障シナリオの定義、主要なステークホルダーの特定、および情報に基づいた意思決定に必要な指標の確立に焦点を当てるべきである。 洪水、土砂災害、山火事、その他の気候変動に起因する災害の影響を理解し、その被害を軽減するための取り組みを行うべきである。これには、リスクの予防・軽減、早期発見、緊急対応策、および過酷な状況下での救助活動に向けた、より優れた手法やモデルの開発が含まれる。 連鎖的な影響や複合的な災害に関する研究は、特に高齢者、障がい者、子どもなど、脆弱な立場にある人々に関して極めて重要である。この観点から、提案は「欧州気候リスク評価（EUCRA[1]）」および統合された各国リスク評価[2]を基盤とし、同様の EU ミッション「気候変動への適応」をテーマに選定されたプロジェクト[3]との相乗効果を見出すべきである。「欧州防災戦略」、「欧州水資源レジリエンス戦略」、および今後策定される「欧州気候適応計画」はいず

	れも、政策指針としての役割を果たす。 多様な気候および環境安全保障のシナリオを策定し、複数のデータソースを活用する革新的かつ信頼性の高いツールを活用することで、包括的かつ適応的な対応を可能にするべきである。また、提案には、データの精度や危機対応能力を向上させるため、コペルニクスやガリレオといった宇宙プログラムの要素も組み込むべきである。国際協力に重点を置くことで、知識の交換を促進し、政策の統合を強化し、ベストプラクティスを共有することが期待される。提案は、EU 域内での国境を越えた協力を支援し、データ共有メカニズムの改善を促進するとともに、「仙台防災枠組」などの世界的なイニシアチブと整合性を保つものでなければならない。ニーニスト報告書[4]で指摘されているように、気候変動に関連する安全保障上の脅威に対するレジリエンスを強化し、最悪の気候シナリオに対処するための協調的なアプローチを確保するための能力構築の取り組み。 プロジェクトでは、欧州の最外縁地域が持つ強みだけでなく、同地域が直面する特有の課題も考慮に入れることができ、また、コンソーシアムの構成にこれらの地域の団体を含めることも可能である。 該当する場合、提案書では、「欧州オープンサイエンス・クラウド（European Open Science Cloud）」、「コペルニクス（Copernicus）」、「デスティネーション・アース（Destination Earth）」の下で連携する欧州研究インフラを通じて利用可能なデータやサービス、ならびに関連するデータスペースのデータを活用すべきである。また、本テーマの枠組みで生成されるデータが FAIR（検索可能、アクセス可能、相互運用可能、再利用可能）であることを確保するために、特に配慮すべきである。 該当する場合、助成対象プロジェクトは、欧州委員会共同研究センターと連携し、欧州構造評価研究所（ELSA）の「Reaction Wall」および「HopLab」において、補完的な実規模試験を実施することが推奨される。 技術成熟度レベル - 完了したプロジェクトに期待される技術成熟度レベル 本プロジェクトの終了までに、各活動において TRL 7～8 の達成が見込まれている（一般付属書 B を参照）。 [1] https://www.eea.europa.eu/en/analysis/publications/european-climate-risk-assessment [2] COM/2024/130 final, Preventing and managing disaster risk in Europe, https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?uri=CELEX%3A52024DC0130 [3] HORIZON-MISS-2026-01-CLIMA-04：災害リスク管理と気候変動への適応の間のギャップを埋める [4] https://commission.europa.eu/topics/defence/safer-together-path-towards-fully-prepared-union_en